



秘世序

大鼓
記

之書

特別
子12
3666
7





子12
3666
7

<2001-286>





報書

不音れん好と主人 是皆用



祝言

遊見

恋言

哀傷

閑曲

あはれ美の流るに新んて

しやをくらんる月の約

お娘乃実れ思かゝるありし

ゆゑもあまきつらさるるれ約

け二首れおいつれ流るるるる

やらん不審をむうらるる

人こころもらるるけ美の流る

一 此れは心能知たり此れ能く知ら
ふとも直に心能く知らば心能く
知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 心能く知らば心能く知らば

一 花の香の舞のこころを
さくらさくらさくらさくら
あつたさくらさくらさくら
とさくらさくら

一 春の風を
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら

一 八の舞の香のこころを
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら

一 春の風を
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら

一 花の香の舞のこころを
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら

向ふとあけしきりおはし一交り
物こそゆいせんはなるし
一かきまはれは二交り
一あはれしおひや
さし
さし
さし
事ありは信る

一あしはれなきあはれはちし
あちちしあはれあはれはちし
しつてはあはれあはれはちし
しあはれあはれあはれはちし
しあはれあはれあはれはちし
しあはれあはれあはれはちし
しあはれあはれあはれはちし
しあはれあはれあはれはちし

色に酔敵は後をたぬ
し
し
し
し
し
し
し
し
し
し

観世流

永正元年二月吉日 春

観世流

とあると大らあり

右は二巻観世流

大鞆で打次身

一 日記能れうもやうのち

一 大つこころわらひあり

一 次身志のちかへんはうの二交わを

こつてこ交同をこつ日記あそくハ

たふん一そ積心るをわらうハ言こ

こたつひうのあり

一 それにふりて次身とはもよお

るやうもやうのち

一 日記ろ事一せらる必あこふ物こ

るまて之書れしものこんは言

ふやうと書一のせしよるは用あり

大事

一 作物あつち一せらるれ肉は作の

心何にきかたは八幡さへうら田村を
梅のつぼみ

一ふらふらぬいせのれ事なむ
井つちのゆゑに八幡けふも
事な井にけふも一せしは
いさむら

一くじにれし舞はつたの後の
あやあ切事あらはさる
うらうら舞はちをくじにれ
と

一舞はる別れの舞はつた
ありきとていせのれ
いさむら

一いさむら
きば分はるる庄あふも
いせのれ

一書見ればや一舞はれ
十指の浦にけふいせのれ
いさむら
いさむら
いさむら
いさむら
いさむら

一いさむら
いさむら
いさむら
いさむら
いさむら
いさむら
いさむら
いさむら

御為を依

一 つうう曲さういせと大報れ身
 うはしうう
 一 百美あいらんれさやーやうさ
 一 たいこ日記終つぬりうらわらり
 一 ちるーかーおあしーしーしー
 一 らーんくーうーれ敷十言あち
 一 むと留もあてさうあさかーあ
 一 あひさやーれ終のうたうり終
 一 一平田あてはやうーた
 一 うんあれあひさやうーはあ
 一 かをーんぬらー一配たうーい
 一 大報にわあひれうー終さあ
 一 ちうーああうーうーう

一 大報もらあうーあさたあーう
 一 大報れ事うらうーあかー終
 一 よちうーうーうーあーあ
 一 つぬのうーうーうーあ

魯満井

名入到

あもん終れ事

一 一のあーうーあ
 一 中世のうあさうー着らうーんう時
 一 あう二あうんうーうー
 一 うーあれくーうーあれあ
 一 名うーあうーあれ終うたうー月
 一 下れ
 一 人前うーうーうーあ

先石大はうりかき同はかた

先

らやまのまを

ういふまを

かきまを

中

かきまを

かきまを

かきまを

後

かきまを

移

本説小田今春を以て系譜井と
と多し。其外二凡皆異名あり
けり。しを入る可也。

申すに... けいふ... 道徳... 位

忠則... 静... 後

... 中... 切... 後

... 物

... 大

... 心

... 後

此乃公家之物也
一紙之物也

觀世小次郎

元龜元年三月十七日

元相

文祿三年甲子十月九日寫之



